

国語 — 岡山大学 2023 年入試問題分析 —

全体講評：大問数・形式とも昨年並み。分量はやや増加し、難易度はやや易化した。現代文・古典ともに、本文は読みやすいが、設問意図を正確に踏まえ、どこまで類推するのか解答範囲を決める必要があった。特に小説文は解答内容がかぶるため、設問指示に正確に答える必要があった。古文は本文からの類推と解答の際の構成力が合否の分かれ目になると思われる。漢文では、日常の高等学校の授業をきちんと聞いていれば解ける問題であり、平素の基礎学習が大切になる設問であった。時間的には余裕があったはず。

試験時間

120 分

難易変化

易化 / 昨年並 / 難化

分量変化

減少 / 昨年並 / 増加

大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『話し手の意味の心理性と公共性』 三木那由他	5ページ。昨年より1ページ増加。小問5題。人間の言語コミュニケーションを人間以外の動物と対比しつつ、言語外の意味を相互に理解し合える不思議さを論じている。設問意図に注意。	★
二	小説文	「ラッキーカラーは黄」 川上弘美 (新潮文庫『猫を拾いに』所収)	7ページ。昨年より1ページ増加。小問4題。一題減少。自分の名前を呼ばれたがらない「女の阿部さん」のこだわりを中心に、日常に隠れた人生の機微を読み取る。解答範囲に注意。	
三	古文	『平中物語』 作者未詳	2ページ。本文の長さが倍になった。小問は4題で変わらず。一部に難解な箇所もあるが、大意はつかみやすく、和歌も読み取りやすい。設問は本文からの類推や正確な逐語訳が求められた。	★
四	漢文	『漢書』 班固・班昭	3ページ、小問5題は昨年と変わらず。本文の筋は捉えやすく、故事も有名なものである。設問では句形と用字に関する正確な理解が求められた。要旨要約では解答の構成力が必要。良問である。	

学習指針：

現代文・古典ともに学校の教科書学習が有効な設問だった。評論では設問の意図を読み取るために、日頃から文章の要点を段落ごとに整理する練習を積み重ねておきたい。小説は心情説明の理由 POINT をしっかり書くこと。古文では特に「和歌の解釈」のための文法事項や知識をおさえ、教科書の「学習のねらい」や「学習のてびき」の考察に丁寧に取り組んでおこう。漢文は書き下しを音読して独特の表現に慣れよう。

※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比と なっています。

※ レベル表示は次の区分になります。

- 難 → ★★★
- やや難 → ★★
- 標準 → ★
- やや易 → (無表示)
- 易 → (無表示)